

「神様は私の味方」

私は、基本的に性別による振る舞いや表現の違いを克服したい側の人間です。男性が専業主夫になっても良いですし、女性がキャリアを積み上げることは称賛されるべきです。男性牧師と女性牧師が共に活躍する社会にあっては、牧師の連れ合いの性別も一つではないことは認めないといけな
いとけません。牧師夫人もいれば、牧師旦那もいるのが現状です。旦那という言葉は、ちょっと
中立的な表現ではないかも知れませんが。あと、夫婦で牧師の場合、女性が主任担任教師になるとい
う事例もあります。ただ、そういう「ジェンダー・フリー」「男女平等」という方針・志向ではあ
りつつも、なかなか崇高な理念だけでは克服できない場面がありまして。それは、子どもに対して
です。毎朝、幼稚園の玄関で、私は元気よく挨拶をしているわけですが、頑として返事をしてくれ
ない子どもがいるんですよね。返事をしてもらえないだけなら良いんですけど、私が近づくと泣く女
の子とかもいまして……。 「ダメじゃないか、そんな男性差別をしたら」なんて思えるはずもな
く、保護者の方から「この子、大人の男の人が苦手なんです」と言われると、心の底から「怖がら
せてごめんな」と思います。とくに、入園してからまだ日が浅い、この時期の小さな子ども達は、
ただでさえお家の人から離れることがつらいのに、私が近づくのは、やっぱり不安だし、怖いんで
すよね。先日、一番小さいクラスのいちご組さんで、一瞬だけ見守りに入ることがありました。2
人いる内の1人の先生が、保護者に呼ばれてクラスを離れないといけなくなったので、呼ばれてい
る間だけちょっとお手伝いに入ったわけです。その時、クラスを離れた先生がいた場所と同じ場所
に行き、積み木遊びを引き継いでしようとしたのですが、積み木遊びをしていた、女の子が1人、
非常に不安そうな顔で、スッとその場所を離れて、もう一人の先生のところに行ったんですね。そ

して、もう堪え切れないという様子で、ワッと泣いたんですね。本当「ごめんよ」って思いました。

いくら、子ども達の優しい味方になりたいと思っても、こちらの一方的な意識や努力では越えられない壁ってあるんですよね。まあ、いつかは仲良くなってみせませんが。卒園するまでには、一緒に遊べるようになりたいと思います。

おこがましいことかも知れませんが、そんな風に、子ども達との関わり方について考える私のように、神様も私たちとの関わり方を考えておられるのかも知れないなあ、とふと思いました。「その独り子をお与えになる程に、この世を愛された」と言われるわけですから、神様に対する私たちの振る舞いは、神様にとって無関心、無関係ではないだろうと思うのです。もちろん、私たちの振る舞いに怯えたり、阿ったりする神様ではないと思いますが、一方で、「熱情の神」と呼ばれるのが、私たちの神様です。私たちの賛美と感謝を喜んでくださり、焼き尽くす献げ物よりも、わたしたちの愛を望まれる、そんな神様です。ホセア書6章6節にある通りですね。「わたしが喜ぶのは、愛であっていけにえではなく、神を知ることであって、焼き尽くす献げ物ではない」。やっぱり、神様も、私たちに近づいた先で、離れられたり泣かれたりでもしたら、少なからず悲しまれるのだらうと思います。神様は、別に私たちがいなくても、神様であり、全知全能、完全無欠であることに変わりはありません。けれど、御自身だけが存在することを良しとはされず、天地を創造され、動植物に命を与え、そして、私たち人間をお創りになりました。創ったからには、被造物である私たちに対して、神様は期待されていることがあるんだ、という信仰的な確信を忘れないでいたいと思います。

今日の聖書箇所は、詩編118編から取りました。「恵み深い主に感謝せよ」という命令であり、呼び掛けから始まります。信仰のないところでは、この歌い出しと言いますか、語り出しは、「なんでやねん」という言いたくなるものかも知れません。「何故、感謝しなければならないのか」と

いうところから話を始めないと、今日の聖書箇所は、消化不良を起こしてしまうでしょう。ただ、主なる神様に感謝しないといけない理由と言うのは、なかなか説明の難しいものでもあります。言うなれば、「大人の男の人が怖いのに、なんで園長先生と仲良くしないといけないの」っていうことと同じです。感謝したくなるための経験、仲良くできるだけの付き合いの積み重ねが無ければ、大人も子どもも心は動きません。すでに信仰を得ている私たちは、それぞれの人生において、十分に神様との付き合いを積み重ねて、感謝できるほどに嬉しい経験を数えて来たということですね。「慈しみはとこしえに」。「神様の慈しみは、いつまでも続くんだ、間違いないんだ」と言えるくらいに、神様との関係性を育ててきたのが、主を賛美できる私たちです。

ただ、そういう風に、神様を賛美し、神様との穏やかで安らぎの得られる関係性に感謝する時、二通りの捉え方があることを知ってほしいと思います。一つ目の捉え方は、「ここで呼び求めている私に、神様が近づいて来てくださった」という、「来てくれる神様」のイメージです。それは、目が見えない人に、足が萎えている人に、悪霊に取り付かれている人に、イエス様の方から近づき、声を掛けて、奇跡の御業を示してくださった。そんな出来事のようなイメージです。まさに一方的な愛と慈しみの顕れですね。文字通りの奇跡ではなくても、私たちの信仰経験の中には、そうした「来てくれる神様」を感じた瞬間もあったかと思います。思い掛けない幸福、危機的状況からの大逆転、願った通りの恵み、あるいは、願った以上の恵み。そんな経験、一つくらいあるかと思います。そこから生まれる神様とのより一層強い絆、結び付き、信仰的確信があります。そして、もう一つの捉え方は、「呼びかける神様に、私の方から近寄って行った」という、「飛び込んだ私」というイメージです。雑踏の中でイエス様の服の房に触れようとするように、パンを求めてイエス様一行を追いかけるように、あるいは、論破しようとして、迫害しようとしてイエス様を狙うように、自分の方からイエス様に近付いていく感じですが。論破や迫害という点に関しては、私自身、最初「毎

週日曜日の朝に教会に集まるなんて、ご苦労なことだ」と思っていた口でしたから、キリスト教に否定から入るのも、ある意味、「狭き門」を選んだと言えるでしょう。どんな形であれ、自分の方から神様に近付き、そして、感謝したくなるような経験を味わう、ということもあります。という感じで、「神様との穏やかで安らぎの得られる関係性に感謝する」という時には、神様から近づいてくれるという形と、私たちの方から近づくという形の、二通り、もしくは、その両方同時にということがあると言えます。

まあ、それは、別にドヤ顔で語るような特別な指摘でも教えでもありません。当たり前のことをちょっと詳しく説明しただけです。ただ、今日の説教題にも掲げた「神様は私の味方」ということを考える時に、ちょっとだけ参考になるのかなと思います。「神様は私の味方」という時も、二通りの捉え方ができます。一つ目は、さっきも言った通り、「神様の方から味方に来てくれた」という捉え方です。弱っている私に、虐げられている私に、死にそうな私に、神様が駆け付けてくれて、心強い味方になってみれた、と。一方で、その逆の捉え方もできます。「私が、神様の味方になりたくて、神様に近付いていった」という捉え方です。この世界に、心地良いもの、刺激的なもの、魅力的なもの、楽しいもの、喜ばしいものが、多々溢れている中で、「いや、私は神様の味方なんです！」と告白するのか、否か。「主はわたしの味方、わたしは誰を恐れよう。人間がわたしに何をなしえよう」という、6節の力強い信仰告白は、神様の差し伸べてくださった御手を、自ら望んで伸ばした手で、しっかりと掴んだ先に生まれるものだと思います。神様が私の味方になってくださったことを感謝すると同時に、私が神様の味方になることを選び取るという姿勢も大切です。

神様は、私たちに「選び取る」という自由を、お与えになりました。それは多分、ロボットのよに命令通りに動く人間よりも、自ら考え、善悪を判断し、その自律的な営みの中で、「やっぱり、神様、あなたが一番です」という信仰告白をする人間の方が、神様には嬉しいからだと思います。

そして、人間の自由意志を尊重しつつ、でも、神様は御自分に人間の心が向くように、ちゃんと配慮されています。その配慮とは、つまり、聖書であり、教会であり、幼稚園であり、また、私たちです。神様は、ちゃんと良いものをくださっています。感謝したくなるような恵みを用意してくださっています。もし誰かが聖書なんてつまらないと言うなら、教会があります。いやいや教会なんて鬱陶しいと言うなら、幼稚園があります。それでも、まだ、そんな幼稚園なんて関係ないと言うなら、最終的には、ここに神様の愛に感謝して生きる私たちがいます。私たち自身が、「恵み深い主に感謝」する姿を通して、神様のことを「味方」だと受け入れる人を招いていくのです。神様が味方でいてくださること、神様の味方でいられることが、どれだけ心強いのか、安心できるのか。主を信じて生きる私たちが示していく。立派な行いでなくても、大事業でもなくても、ただ、主に信頼して祈りを忘れない姿を示していく。それって、大切ですよ。

今日から始まる1週間、私たちは神様と共に、イエス様と共に、聖霊と共に歩んでいきます。そのことの喜びと幸いを、今一度、再確認して、しみじみ味わってみたいと思います。今週も、遭いたくない試みや、赦しを乞いたくなるような失敗もあるかも知れません。しかし、「神様が味方」だから、そして「神様の味方」だから、私は大丈夫！と信じて、朗らかに、喜んで、感謝して歩んで参りましょう。そんな私たちの上に、主の豊かな顧みがありますように。お祈りを致します。

神様。

あなたを多くの人を愛し、命を与え、日々の幸いを備えてくださいます。そして、あなたは私たちに御声を掛けてくださり、今日も、こうして礼拝に招いてくださいました。こうして、信仰の友人たちと、共に祈り、賛美できること、それそのものが、あなたの愛の顕れであると信じ、感謝致します。どうか、神様、この恵み深い礼拝の喜びを、より多くの人たちと分かち合い、また、感謝することができますように。あなたが、私たちの宣教の業を導き、福音の力を豊かに示してください。あなたが味方になってくれる幸い、あなたの味方になる幸いを、今日から始まる1週間、味わい噛みしめることができますように。私たちの信仰の歩みを支え導いてください。このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。